

奈良県紀の川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会

国・県からの情報提供

目 次

- ・ 奈良県 河川整備課からの情報提供 1
- ・ 奈良県 砂防・災害対策課からの情報提供 5
- ・ 奈良地方気象台「防災気象情報の改善と取組」 12

取組機関	奈良県	連携機関	なし
------	-----	------	----

取組内容	No.26-A 想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図の策定・公表 (水害リスク情報の空白域の解消)
------	---

◎取組概要

浸水想定区域図を奈良県災害リスク情報システム上で公開

降雨情報や土砂災害に関する情報を確認することができるシステムに改良を行い、これまで河川ごとにホームページ上にPDFで公開していた浸水想定区域図が、奈良県災害リスク情報システム上で閲覧可能になった。地図上の任意の地点をクリックすると、どの河川から浸水のリスクがあるのかや、河川ごとにその詳細な浸水深を確認することができるほか、土砂災害警戒区域等と洪水浸水想定区域図を同時に確認することも可能。

特徴① 細かな浸水深まで確認できる

地図上の任意の地点をクリックすると、シミュレーションに基づく詳細な浸水深が表示される。

特徴② どの河川からの浸水リスクがあるのか確認できる

地図上の任意の地点をクリックすると、どの河川からの浸水リスクがあるのかを確認できる。

地図上では、最大の浸水深が着色されている。

特徴③ 土砂災害警戒区域等と洪水浸水想定区域を同時に表示できる

『土砂災害警戒区域等』と『洪水浸水想定区域』を同時に確認することができる。

奈良県 河川整備課からの情報提供

共通

国管理区間

県管理区間

取組機関

奈良県

連携機関

なし

取組内容

No.19 住民や近隣市村に確実に伝えるため、デジタル技術等を活用した情報伝達手段の整備（河川水位等の水防情報の集約化）

◎取組概要

河川情報システムホームページやアラームメールを改良

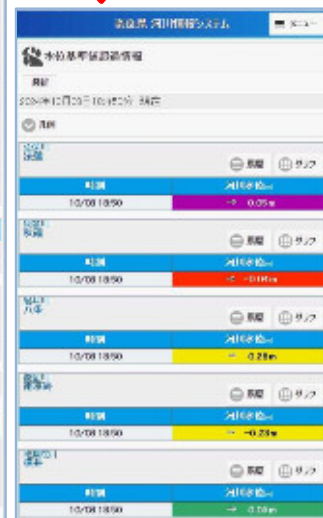
アクセスの多いスマートフォンサイトを改良し、PC版サイトのトップページ同様の水位基準超過状況および大雨洪水警報注意報発表状況一覧が確認可能になった。



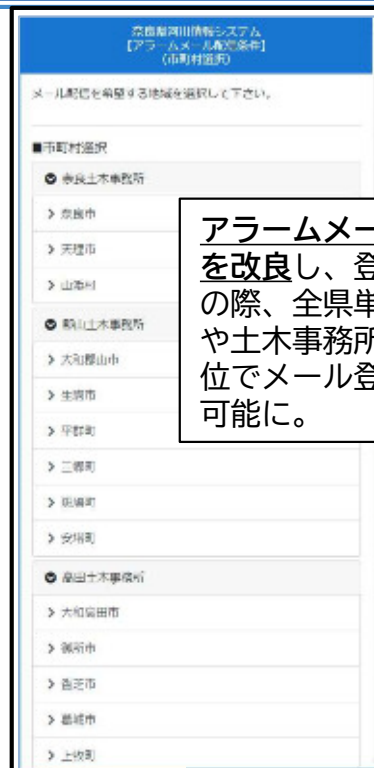
奈良県河川情報システム
(スマホ版)



[\[詳細情報\]](#)
[ボタンクリック](#)



PC用サイトへのリンクも追加

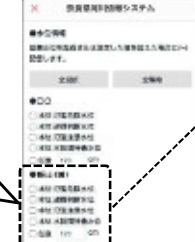


アラームメール
を改良し、登録
の際、全県単位
や土木事務所単
位でメール登録
可能に。



奈良県河川情報システム
メール配信サービス
(スマホ版)

メール配信対象の水位計に河川事務所設置（国）の水位計を新たに追加



●板束(国)

☐ 水位 氾濫危険水位

☐ 水位 避難判断水位

☐ 水位 氾濫注意水位

☐ 水位 水防団待機水位

☐ 任意 120 cm

【目的】

市町村長は水防法15条に基づき、洪水浸水想定区域図に洪水予報等の伝達方法、避難場所その他洪水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項等を記載した洪水ハザードマップを作成し、住民の方々に周知することとなっています。【法的義務】

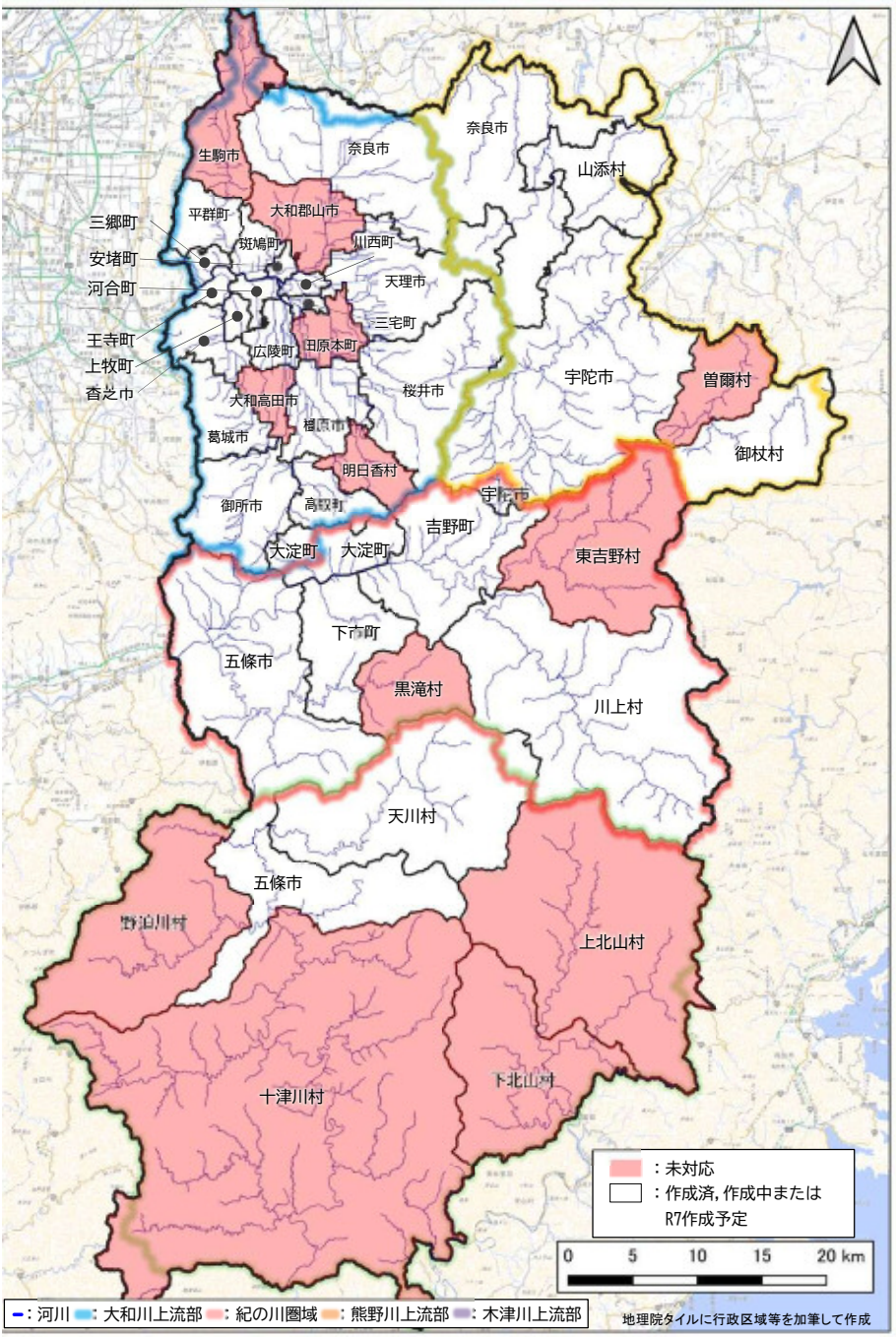
令和3年5月の水防法改正により、洪水浸水想定区域の指定に中小河川が追加され、水害リスク情報の空白地帯の解消を目指すこととされました。県において、中小河川の洪水浸水想定区域図を作成し、令和5年5月に公表しています。これを受け、市町村において、中小河川も含めた水害ハザードマップの作成・更新を進めています。

R6.12時点で奈良県内の中小河川を反映した洪水ハザードマップ作成率は、26%(10/39) 【令和8年度までの作成を目標】 (R6.12末時点)

中小河川を反映させた洪水ハザードマップ									
市町村	作成済	作成中 (R6年度)	来年度作成 (R7年度)	水位周知河川の 水害ハザードマップ作成	市町村	作成済	作成中 (R6年度)	来年度作成 (R7年度)	水位周知河川の 水害ハザードマップ作成
奈良市	○			○	曽爾村	×			—
大和高田市	×			○	御杖村	×	○		—
大和郡山市	×			○	高取町	○			○
天理市	×		○	△	明日香村	×			○
橿原市	×	○		○	上牧町	○			○
桜井市	○			○	王寺町	×	○		○
五條市	○			○	広陵町	×	○		○
御所市	○			○	河合町	×		○	○
生駒市	×			○	吉野町	×		○	○
香芝市	○			○	大淀町	×	○		○
葛城市	×		○	○	下市町	×		○	○
宇陀市	×	○		○	黒滝村	×			○
山添村	×	○		○	天川村	×	○		—
平群町	×		○	○	野迫川村	×			—
三郷町	○			○	十津川村	×			—
斑鳩町	×	○		○	下北山村	×			—
安堵町	○			○	上北山村	×			—
川西町	×		○	○	川上村	○			○
三宅町	×		○	○	東吉野村	×			○
田原本町	×			○	合計	10市町村	9市町村	8市町村	対象すべて作成

※天理市において一部未作成

一:対象外



＜奈良県内中小河川を反映させたハザードマップ作成状況＞

【目的】

「避難確保計画」とは、水害や土砂災害が発生するおそれがある 場合における利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な事項を定めた計画です。

水防法15条により、洪水浸水想定区域図内にあり、市町村が作成する地域防災計画に記載されている要配慮者利用施設の管理者は避難確保計画の作成義務があります。

また、市町村長は避難確保計画を促進するため、計画を作成していない施設管理者に対して、期間を定めて作成の指示を行い、その指示に従わなかったときは、その旨を公表することができるとされています。

県では、要配慮者利用施設の避難確保計画作成率100%を目指し、引き続き作成状況を確認するとともに、関係市町村と連携して支援を行っていきます。

奈良県内の地域防災計画の見直し率は35.9%

(R6.12月末時点)

市町村	地域防災計画※ の見直し	作成率	避難確保計画 作成対象施設	作成数	未作成数
奈良市	○	96%	187	180	7
大和高田市	○	100%	12	12	0
大和郡山市	×	100%	56	56	0
天理市	×	100%	28	28	0
橿原市	×	99%	73	72	1
桜井市	×	100%	10	10	0
五條市	○	100%	21	21	0
御所市	○	100%	18	18	0
生駒市	○	86%	29	25	4
香芝市	○	2%	87	2	85
葛城市	×	43%	7	3	4
宇陀市	×	100%	13	13	0
山添村	×	100%	1	1	0
平群町	×	83%	6	5	1
三郷町	×	100%	2	2	0
斑鳩町	×	55%	42	23	19
安堵町	○	100%	6	6	0
川西町	○	6%	17	1	16
三宅町	×	100%	7	7	0
田原本町	×	100%	87	87	0

作成率: 0～49% 50～75% 76～99% 対象外

市町村	地域防災計画※ の見直し	作成率	避難確保計画 作成対象施設	作成数	未作成数
曽爾村	×	—	0	0	0
御杖村	×	—	0	0	0
高取町	○	—	0	0	0
明日香村	○	—	0	0	0
上牧町	×	0%	3	0	3
王寺町	×	84%	51	43	8
広陵町	○	100%	30	30	0
河合町	×	0%	2	0	2
吉野町	×	75%	4	3	1
大淀町	×	—	0	0	0
下市町	×	100%	3	3	0
黒滝村	×	100%	3	3	0
天川村	×	—	0	0	0
野迫川村	×	—	0	0	0
十津川村	○	—	0	0	0
下北山村	○	—	0	0	0
上北山村	×	—	0	0	0
川上村	○	—	0	0	0
東吉野村	×	100%	4	4	0
合計	35.9% (14/39)	81.3%	809 (28市町村)	658	151

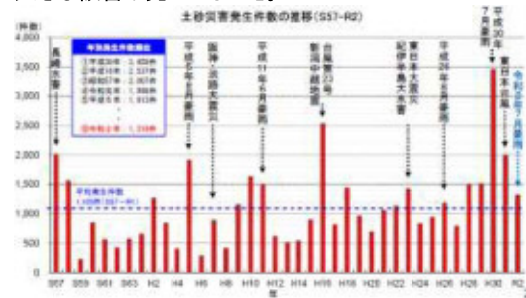
※「特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律」(令和3年法律第31号)に基づき地域防災計画の見直しが完了

土砂災害地域防災マップづくりワークショップを通してリスクの見える化を図る取り組みを実施します。

砂防・災害対策課

①大規模な土砂災害が日本各地で毎年のように発生しています。

地球温暖化が進む中、雨の降り方が変わってきているといわれています。その影響もあり、近年では大規模な土砂災害が日本各地で毎年のように発生しています。令和2年には7月豪雨、毎年7月・8月と大雨が続き、被害は全国に広がっています。奈良県においても平成23年に紀伊半島大水害が発生し、大きな被害が発生しました。



土砂災害発生件数の推移 (S57-R2)
出典: 国土交通省「令和2年の土砂災害」

令和2年7月豪雨による被害



③地域で起こり得る災害について学び、危険な場所を共有し、いつ・どこへ・誰が逃げるのかを確認しておきましょう。

地域で起こり得る災害、地域の危険な場所、災害実績(伝承)、地域の役割分担などを事前に確認しておくことが重要です。日頃からの備えが緊急時の住民の方の判断力・行動力につながります。また、地域と行政で話し合い、課題を共有することは自助・共助・公助のすべての向上に役立ちます。

【訓練・ワークショップの内容例】

- 防災講座(近年の土砂災害、地域で起こり得る災害、避難行動)
- マップづくり(ハザードマップ更新)
- 現地確認 など

マップづくり

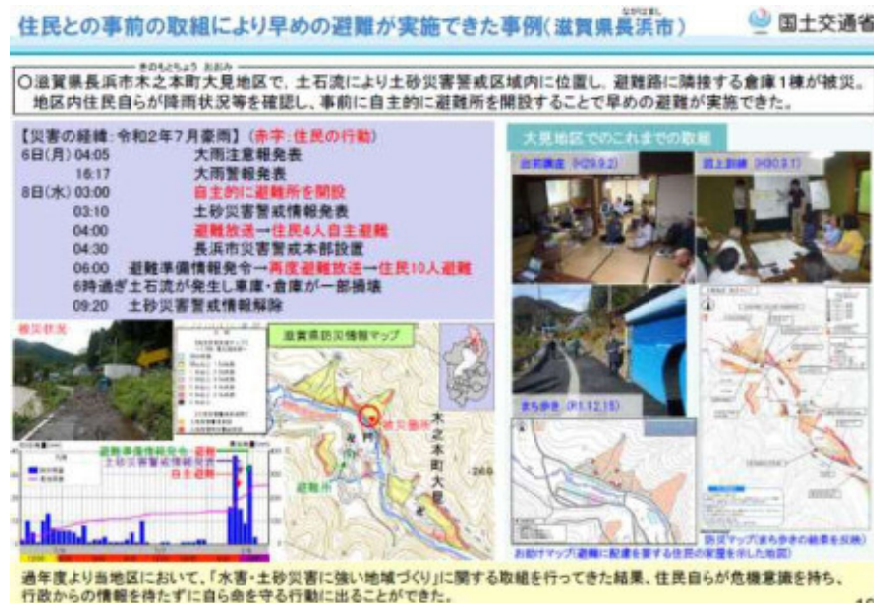
確認訓練



地域で起こり得る災害に気づく、とるべき避難行動について考える、課題を共有することが自助・共助・公助すべての向上につながる

②災害から命を守るためには、日頃からの備えが最も重要です。

令和2年7月豪雨の際には、事前の取り組みと早めの避難が功を奏して、土砂災害が発生する前に避難して難を逃れた事例が複数報告されています。



出典: 国土交通省「令和2年の土砂災害」

④マップ作りワークショップを開催しませんか。

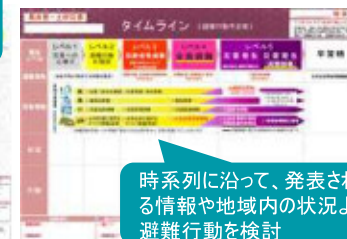
令和元年には発生頻度が比較的高い土砂災害(表層崩壊)と紀伊半島大水害で発生した深層崩壊の二段階被害を想定した訓練、ワークショップを県内3地区で開催しました(東吉野村、天川村、十津川村)。既存のハザードマップに情報を追加したり、タイムラインの考え方を導入して段階ごとの避難行動を住民の皆様を中心に話し合っていました。

終了後のアンケートでは「危険な場所の共有ができた」「定期的に開催してほしい」といったご意見をいただきました。この取り組みを皆様の地域でも行ってみませんか。資料の準備方法や運営方法が分からないなどお困りのことがありましたら支援を行いますのでお気軽にご相談ください。

話し合いにより大雨時に注意が必要な場所や被災状況や土砂流出実績などを記入



既存ハザードマップの活用



タイムラインの考え方を導入

時系列に沿って、発表される情報や地域内の状況より避難行動を検討



令和元年度ワークショップの様子

土砂災害地域防災マップづくりワークショップを通してリスクの見える化を図る取り組みを実施します。

砂防・災害対策課

⑤ワークショップで作成した防災マップを看板として設置し、リスクの見える化を図ります。

さらなる取り組みとして、ワークショップで作成した防災マップを看板として地域に設置し、リスクの見える化を図るとともに、災害リスクの周知を行います。



防災マップ作成例

⑥看板設置の費用は「土砂災害リスク情報整備事業」の交付金事業を活用します。

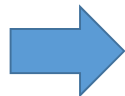
【土砂災害リスク情報整備事業の趣旨】

○土砂災害警戒区域等の現地表示など、土砂災害に関するリスク情報をより分かりやすく伝達し、住民の危機意識の向上に資する取組について支援する「土砂災害リスク情報整備事業」が交付金事業に追加されました

○標識等の設置にあたっては、ハザードマップを作成する市町村や危機管理局などとも連携し、より充実した内容となるよう取り組むものとされています。

【費用の負担割合について】

国の交付金(1/2)
県による補助(1/2)



市町村の財政負担はありません

【看板の型式について】

型式は、既存の電柱や壁面等への添架、単独の柱等に設置するタイプなど、現地表示箇所の状況等を踏まえ、適切な型式を選定します。(設置看板イメージは右記参照)

【土砂災害警戒区域等の現地表示の考え方】

現地表示箇所は、日頃から住民等に認知される箇所を基本とします

箇所予定：避難場所表示看板の横

駅周辺

公民館といった地域の集会場所 等

→ 設置場所についてもワークショップの中で検討を行います。



設置看板イメージ①(土中式)



設置看板イメージ②(電柱巻付式)



設置看板イメージ③(壁面添架式)

<ご相談はこちらへ>

奈良県 県土マネジメント部

砂防・災害対策課 災害対策係

TEL: 0742-27-8521

HP : <http://www.pref.nara.jp/1681.htm>



避難の基本は自助、共助

十津川村折立地区で「土砂災害地域防災マップづくり」を実施！

～奈良県 砂防・災害対策課～

奈良県では、自助・共助について考え、防災意識を向上してもらうことを目的として、「土砂災害地域防災マップ」を作成しながら、地域の危険な場所や避難方法について話し合うワークショップを実施しています。今回は、十津川村を通じて実施依頼のあった折立地区の皆さんを対象に実施しました。マップ作りの後には、地区内に設置予定の土砂災害に関する看板のデザイン案について意見を伺いました。

<開催日時>

令和6年12月7日（土）13時00分～15時00分

<開催場所>

十津川村 村民ひろば

<参加者>

計8名

<ワークショップ内容>

ミニ講座、マップ作り、看板デザイン案の意見聴取



▼ミニ講座のようす



▼マップづくりのようす



▼看板デザイン案の意見聴取



土砂災害の特徴や
身を守る方法を
説明しました

地区内に設置予定の
看板デザイン案、
設置場所の意見を
伺いました！



▼作成したマップを紹介



十津川村職員の方から
広域避難の考え方を
ご説明いただきました

参加者の方から
作成したマップを説明
いただき、
情報を共有しました

依頼
随時受付中！



【問合せ先】奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地 TEL.0742-27-8521

奈良県
Nara Prefecture

インターン生も参加！五條東小学校にて出前講座 実施 ～土砂災害から身を守るために～

～奈良県 砂防災害対策課～

奈良県では、小中学生や地域のみなさんを対象に土砂災害について知っていただき、身を守るための正しい避難行動をとっていただくために、出前講座を行っています。

今回は、五條市立五條東小学校に伺い、紀伊半島大水害に関して学ぶ宿泊学習を実施している4年生のみなさんに、学習の一環として出前講座を受講いただきました。当日は奈良県庁のインターンシップに参加された学生1名の講座の補助として、参加していただきました。

＜開催日時＞

令和6年9月5日（木）

＜開催場所＞

五條市立五條東小学校 13:45～15:30

＜出展内容＞

五條市立五條東小学校 4年生（28名）



五條東小学校
(奈良県五條市)

▼講義のようす



▼身の周りの危険な箇所を確認

学校周辺の土砂災害警戒区域を現地で確認。さらに、奈良県で作成している情報をタブレットを使って見てもらいました



▼模型実演(表層・深層崩壊の違い)

表層崩壊と深層崩壊の規模の違いを模型を使った実演で実感してもらいました



▼砂防ボランティアによる体験談

砂防ボランティア(県土木職員OB)の方から紀伊半島大水害の体験談を講演いただきました。



【生徒のみなさんの感想】

- ・今まで土砂災害のことをあまり知らなかったが、話を聞いてよく分かった。
- ・自分の命を守るために避難場所を決めたり、準備をしておくことが大切だと学んだ。
- ・学校の近くに危ない場所があることは知っていたけど、どんな危険があるかが分かった。

【インターン生の感想】

- ・学校に出向いての防災授業を体験して貴重な経験になりました。

講座依頼
随時受付中!



【問合せ先】奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地 TEL.0742-27-8521

奈良県
Nara Prefecture

上北山やまゆり学園にて出前講座 実施 ～土砂災害から身を守るために～

～奈良県 砂防災害対策課～

奈良県では、小中学生や地域のみなさんを対象に土砂災害について知っていただき、身を守るための正しい避難行動をとっていただくために、出前講座を行っています。

今回は、上北山やまゆり学園に伺い、1年生から9年生の全学年及び教員のみなさんに、学習の一環として出前講座を受講いただきました。

＜開催日時＞

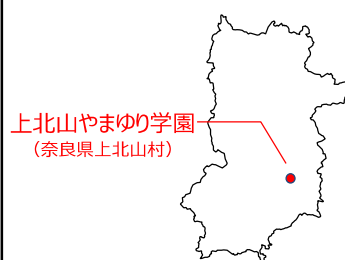
令和7年1月22日(水)

＜開催場所＞

上北山やまゆり学園 13:40～15:20

＜受講者＞

上北山やまゆり学園 全学年(10名)



上北山やまゆり学園
(奈良県上北山村)

▼講義のようす



全国で土砂災害はどのくらい起きてるかな?

▼身の周りの危険な箇所を確認

家の周りの土砂災害警戒区域を確認。タブレットを使って奈良県で作成している情報を調べてもらいました。



学校の周りは安全かな?



どこまで被害が及ぶかな?

▼模型実演(表層・深層崩壊の違い)

表層崩壊と深層崩壊の規模の違いを模型を使った実演で実感してもらいました。



講義で使用了模型



▼砂防ボランティア協会の講演

紀伊半島大水害発生時の体験談を講演いただきました。



【生徒のみなさんの感想】

- ・がけ崩れ、土石流、地すべりの違いを知ることができた。
- ・前に家族でハザードマップを見たけど、よく覚えていなかったのでもた話し合おうと思った。
- ・家族と災害時に必要なものを確認して、家の近くの安全な場所について話したいと思った。

講座依頼
随時受付中!



【問合せ先】奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地 TEL 0742-27-8521

奈良県
Nara Prefecture

VRも導入！富雄中学校にて出前講座 実施

～土砂災害から身を守るために～

～奈良県 砂防災害対策課～

奈良県では、小中学生や地域のみなさんを対象に土砂災害について知っていただき、身を守るための正しい避難行動をとっていただくために、出前講座を行っています。

今回は、奈良市立富雄中学校に伺い、2年生のみなさんに、土砂災害から身を守るために、土砂災害が起きる仕組みや対策の紹介、避難する際の留意点などについて、講座を行いました。

<実施日時>

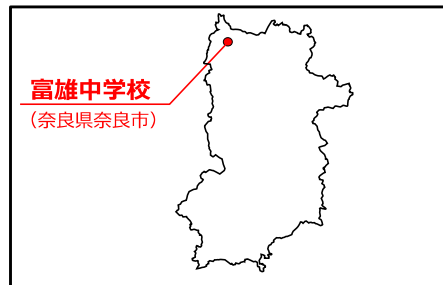
令和6年5月15日 1時間目～5時間目

<実施場所>

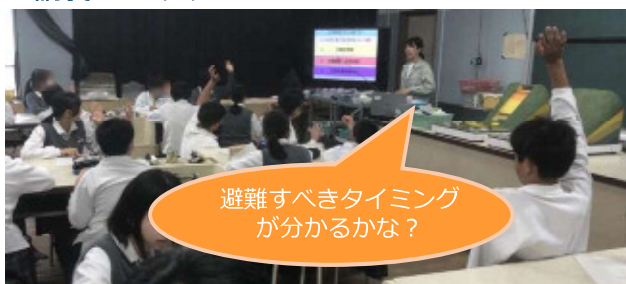
奈良市立富雄中学校

<参加者>

奈良市立富雄中学校 2年生 全5クラス



▼講義のようす



避難すべきタイミング
が分かるかな？



▼模型実演（表層・深層崩壊の違い）

表層崩壊と深層崩壊の規模の違いを模型を使った実演で実感してもらいました



どこまで被害が及ぶか
見てみよう



◀VRによる土砂災害からの避難

土砂災害からの避難方法について、今年度から導入したVR（バーチャルリアリティ）を使って学習しました



身の周りの危険な箇所を確認▶

自分たちの住む地域の土砂災害警戒区域を確認。奈良県で作成している情報をタブレットを使って見てもらいました

【生徒のみなさんの感想】

- 模型を使った深層崩壊、表層崩壊の違いがわかりやすく、あんな広範囲まで土砂が来ることに驚きました。
- 砂防堰堤について初めて知り 特に流木も止められる透過型堰堤はすごいと思いました。
- 今まで大雨警報が発令されても気にしていなかったけれど、話を聞いて、もう一度家族で避難経路を確認しようと思いました。
- 砂防堰堤があれば土砂災害の数は減ると思うけど、そう簡単に設置できないことを知って、土砂災害から身を守る意識をしっかりとって避難することが大事だと思いました。

講座依頼
随時受付中!



【問合せ先】奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地 TEL 0742-27-8521

奈良県
Nara Prefecture

イオンモール橿原で「土砂災害パネル展」を開催 土砂災害から身を守るために！

～奈良県 砂防・災害対策課～

○土砂災害に関するパネル展を、イオンモール橿原において国土交通省 紀伊山系砂防事務所及び
気象庁 奈良地方気象台と共催しました。

日時：令和6年6月1日（土）～6月7日（金） イオンモール橿原3F JINS前（常設展示）

○砂防・災害対策課や紀伊山系砂防事務所の土砂災害に関するパネルの他、橿原市危機管理課によるハザードマップや、橿原警察署による紀伊半島大水害時の対応紹介、奈良地方気象台によるキキクル紹介、大和川河川事務所による亀の瀬地すべりの事業紹介などのパネルを展示しました。また、土砂災害からの身の守り方を学べるVR（バーチャルリアリティ）体験や、「奈良県災害リスク情報システム」を使った周囲の危険箇所確認ブースも設置し、多くの方にご来場いただきました。

▼パネル展実施のようす



▼パネルを見学する来場者



▼土砂災害からの身の守り方を学べるVR体験



▼身の周りの危険な箇所を確認する来場者



- ・来場者からは、「VR体験での土石流に飲み込まれる映像は迫力があり、怖かった」「映像で体感できて勉強になった」「早めの避難が大切だということが理解できた」などの感想をいただきました。
- また、橿原市のハザードマップの展示では、多くの来場者が自分の家と危険区域を確認していました。
- ・今後も砂防・災害対策課では、県内の各所で土砂災害防止に関する啓発活動を実施していきます。

【問合せ先】奈良県 県土マネジメント部 砂防・災害対策課

〒630-8501 奈良県奈良市登大路町30番地 TEL 0742-27-8521

 **奈良県**
Nara Prefecture